



第29回千葉県協同組合間提携女性交流会を開催しました！

11月25日に千葉市で、第29回千葉県協同組合間提携女性交流会を開催しました。この女性交流会は、千葉県生協連、千葉県漁協女性部連絡協議会、JA千葉女性部協議会、千葉県協同組合提携推進協議会が主催し、農林水産業及び生産現場での体験、暮らしに共通する課題の話し合いなどを通じ、生産者と消費者が相互に交流することを目的として、毎年開催するものです。持ち回り開催の今年度は、千葉県生協連が事務局として企画・運営を担当しました。



今回は協同組合の地域課題解決のきっかけとして、千葉県内のフードバンクと子ども食堂の取り組みについて学習しました。フードバンクと子ども食堂の皆さんにも、交流会に参加していただき、家庭から持ち寄った食材などを使った昼食づくりとおしゃべりから、知り合い、声のかけ合える関係づくりのきっかけとなることを目的に開催しました。総勢43人が参加しました。

初めに、千葉県フードバンク団体連絡会から、NPO法人フードバンクふなばし理事長の笹田明子さんに日々の活動についてお聞きした後、とうかつ草の根フードバンクの田中玲子さんのファシリテートのもとグループごとに、カードを使って様々な状況の困窮家庭に送る食品のセット作業を体験するワークショップをおこないました。いくつもの家庭のそれぞれの事情に合わせて、集まった食品をどのように配るのが大変難しいことを実感し、フードバンクのみなさんの日々の取り組みが垣間見えました。



ワークショップの様子



(上)集まった食材、(下)左から伊藤はつ子副実行委員長(JA)、重田千鶴子実行委員長(生協連)、講師の田中さん、高橋さん、笹田さん

続いて、千葉県子ども食堂連絡会代表の高橋亮さんから、子ども食堂についてご紹介いただきました。そもそも「子ども食堂は子どもが一人でも来られる無料または安価の食堂」であり、「『支援』ではなく『子どもをまん中』に多様な人々が集まれる『居場所』」であること、また「必要であれば支援につなげることができる『入り口』」と話されました。

お話を聞いた後は、グループのメンバーで生協の食品ロス削減を意識したミールキットや冷凍食品と持ち寄った野菜などを使った簡単な昼食を作り、食事をしながら楽しく交流しました。最後に、参加者から提供された食品や野菜、米などを、フードバンクと子ども食堂の皆さんに贈呈しました。

参加者からは「フードバンク、子ども食堂についての理解ができました」「座学だけでなく、グループでのワークショップもあり、とても良い研修でした」「農協、漁協、生協の皆さんが、このように日頃から交流しているのはすごいと思いました」との感想がありました。